

企画主旨

- X-ray写真特有の透け感をオフセット印刷で表現する。
- 白インキを用いて、見えない光を印刷する。

作家

Albert Koetsier (<http://www.beyondlight.com/>)
オランダ出身のX-ray写真家。8歳から写真を始め、X-rayで写した時に浮かび上がるモノの細部の美しさに惹かれ、X-ray写真家として活動をはじめた。

印刷機

RMGT9 (LED-UV)

用紙

表紙・本文：特菱アート(両) 菊全判/93.5kg
短冊：パールカードK全判/21.5kg

※各月の刷色は、日曜玉部分(特赤)を除いた解説です。また、色名の後の()には網角度を記載しています。

表紙

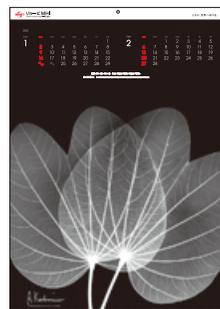
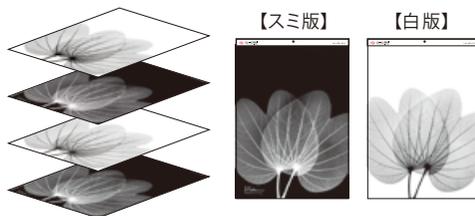
刷色：CMYK



本文では、全月白版を用いた印刷表現をトライアルしているため、表紙は通常のプロセス4色印刷にすることで、それらの効果の差をお楽しみいただけます。

1.2月

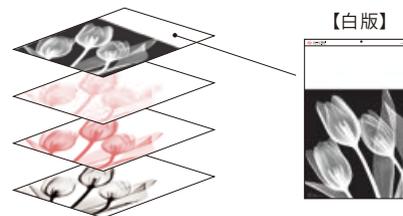
刷色：スミ(45) ▶ 白(15) ▶ スミ(75) ▶ 白(0)



スミ版と白版は、互いにポジ版/ネガ版の関係で製版。「スミ+白」を同じ版(※1)で2度重ね刷りすることで、青白い光を発するような不思議なヴェール感が生まれています。
※1網角度と文字のトラッピング処理以外。

3.4月

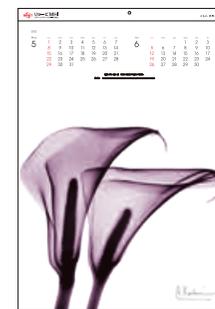
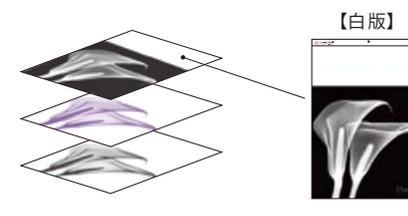
刷色：スミ(45) ▶ 濃ピンク(75) ▶ 薄ピンク(45) ▶ 白(0)



基本の色調は、スミ+特色2色のトリプルトーンで構成。白版は、RGB元画像をグレースケール化⇒ネガポジ反転したものをベースに、花の部分の鮮やかさを覆い過ぎないように、透明感との両立を目指しました。

5.6月

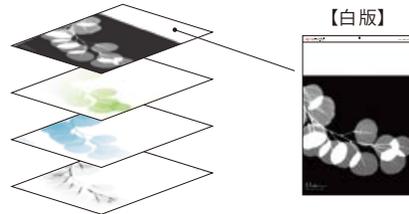
刷色：スミ(45) ▶ 紫(75) ▶ 白(0)



基本の色調は、スミ+特色紫のダブルトーンで構成。モチーフのクリアな抜け感を実現するために、鮮やかな特色紫を主体とし、スミ版は硬く製版。白版は3,4月と同様の方針で作成しています。

7.8月

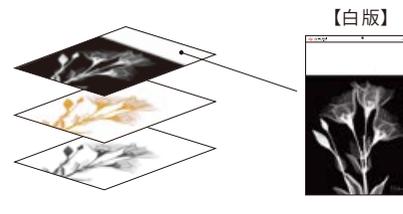
刷色：スミ(45) ▶ ターコイズブルー(75) ▶ ライトグリーン(45) ▶ 白(0)



基本の色調は、スミ+特色2色のトリプルトーンで構成。葉が重なっている部分には白版を入れず、それ以外の部分と差別化することで、モチーフの光の透過性を白インキを使って表現しました。

9.10月

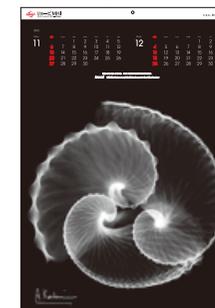
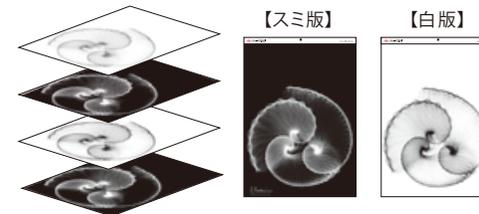
刷色：スミ(45) ▶ 茶色(75) ▶ 白(0)



基本の色調は、スミ+特色茶色のダブルトーンで構成。ダブルトーン的设计から階調豊かな製版を意識しつつ、特につぼみ等の暗部には、更に白版を効かせてよりx-ray写真らしい表現を試んでいます。

11.12月

刷色：スミ(45) ▶ 白(15) ▶ スミ(75) ▶ 白(0)



基本的な版づくりは、1,2月と同様。「スミ+白」を2度重ね刷りすることで、スミ1度刷りでは出せない漆黒の背景とのコントラストが、白版の繊細な調子をより引き立てています。